

歴史浪漫紀行

古くから交通の要衝だったこの地は、戦国時代には千葉氏の拠点が置かれ、江戸時代には城下町や宿場町として栄えました。さらに、墨古沢遺跡により少なくとも3万4000年前には人々の暮らしがあったことがわかっていきます。地域の歩みを物語る歴史遺産の一部を紹介します。



本佐倉城跡 国指定史跡

戦国時代の文明年間(1469～1487)に千葉輔胤によって築城されました。豊臣秀吉に滅ぼされるまでの100年余りの間、9代にわたり千葉宗家の本拠地として栄えていました。城の規模は東西約700m、南北約800mで、面積は約35ha。現在でも郭や馬場、虎口、空堀、土塁、櫓台などが良好に保存されています。



墨古沢遺跡 国指定史跡

3万4000年前の旧石器時代に属する遺跡。「石器ブロック」と呼ばれる石器の分布が集中する場所が、ドーナツ状に配置された「環状ブロック群」と呼ばれる遺跡で、日本最大級の規模を誇ります。



墨の獅子舞

県指定無形民俗文化財

享保19年(1734)、六所神社の遷宮式のために羽根国羽黒山から師を招いて伝授を受けたのが始まり。演目は、「足揃え」「芝獅子」「剣の舞」「猿獅子」が伝承されています。



馬橋の獅子舞

町指定無形民俗文化財

江戸時代から伝承されており、「芝獅子」「へいそく獅子」「猿獅子」「剣の舞」の4演目が香取神社で奉納演舞されています。

上岩橋の獅子舞

町指定無形民俗文化財

江戸時代中期頃から伝わり、「とおし」「れいとろ」「白羽」「弓くぐり」「一匹舞」の演目が、区長宅・駒形神社・菊賀神社・大鷲神社の順で奉納演舞されます。



銅造阿弥陀如来・両脇侍立像 清光寺

県指定文化財

阿弥陀如来には、正安二年(1300)の造立年次などが刻まれています。鎌倉時代末における善光寺式如来の普及のさまを知り得る貴重な一遺例です。



木造阿弥陀如来坐像 長福寺

県指定文化財

平安時代後期の定朝様式の作風を伝える木像です。頬の強く張った丸顔や奥行の深い体部などに、新しい時代の傾向もみられ、12世紀の制作と推定されています。



銅雲版 浄泉寺

県指定文化財

寺院などで食事や法要の合図に鳴らす道具。応永22年(1415)に鑄造され下野国(栃木県)に所在したもので、周恩来和尚が持参したとされています。



飯積の大杉

町指定天然記念物

酒々井町では最大の杉。伊豆神社の境内にある大杉は目通り径4.3m、地元の伝承では樹齢700年の巨木です。



勘吉五郎家 国登録有形文化財

醤油や茶を扱った商家・勘吉五郎家の住宅店舗兼主屋。明治時代中期以前に、宿場町として賑わっていた成田街道沿いに建築されました。



島田長右衛門家 島田政五郎家

町登録有形文化財

島田長右衛門家(呉服・太物・足袋の小売問屋)と分家・島田政五郎家(灯油の製造)の店舗兼住宅は、明治前期に建築されました。島田家は江戸時代に幕府野馬御用を務めた牧士の家です。



飯沼本家 国登録有形文化財

歴史を有する県内有数の蔵元・飯沼本家の当主が住み継いでいた主屋は、江戸中期に建築されました。離れ家や蔵なども文化財として登録されています。

酒の井の碑

ある孝行息子が見つけた井戸から酒が湧いたことが「酒々井」という地名の由来といわれています。「酒の井」を記念した酒の井の碑が、円福院神宮寺の境内にあります。

